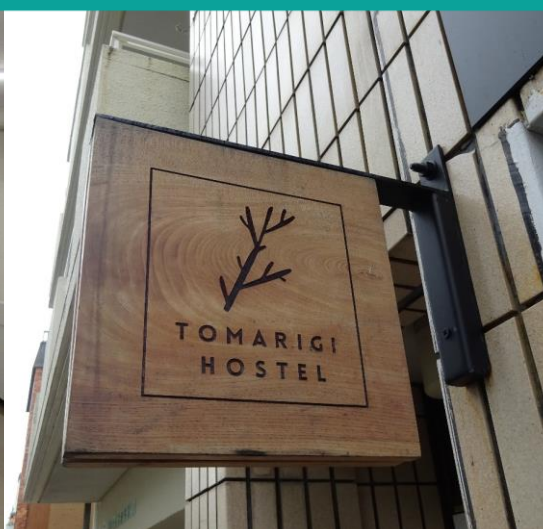


価値観に  
刺激を  
うけよう

# Session



特集  
01

ゲストハウス「とまり木」 / オーナー  
篠田 善典

cafe カネナカ / 店主  
中沢 恵美子

特集  
02

2.0design / デザイナー  
溝渕 恵里

## 特集 01

# 土佐経営塾が結んだ ふたつの“物語”

8期生 (2017年修了)

ゲストハウス「とまり木」  
オーナー

篠田 善典

9期生 (2018年修了)

Café カネナカ  
店主

中沢 恵美子



今年で33歳となる篠田善典さんの人生のキーワードは「宿」。大学卒業後は製薬会社でMRとして活躍しましたが、「宿」の魅力に巻きとられるように、ペンションオーナー（ただし雇われの身）を経て、楽天トラベルに転職。生まれ故郷の高知で、宿泊ビジネスで自立するためにゲストハウス経営にターゲットを定め、そこへの一步を踏み出すための経営面での知識補強の目的で、土佐経営塾の第8期生となりました。この時期の篠田さんは、楽天トラベルへの最後のご奉公と、ゲストハウス起業準備と、土佐経営塾での毎回の課題に追われて超多忙でしたが、2017年12月に修了した経営塾の記憶も鮮明な翌2018年2月、菜園場にゲストハウス「とまり木」を開業します。最初の数ヵ月はバランスシート資産が積み上がる時期ゆえに、現金が急激に減っていくさまに気が遠くなったりもしましたが、こうしたことは経営塾でシミュレーション済みだったので、心を強くもつことができました。ただ、気が張っていた最初の半年で、想像以上に気力と体力を消耗してしまった篠田さんは、若干の体調不良も経験。それでも事業は順調に軌道に乗っていきました。



翌年11月、土佐経営塾の第9期生のセッションに、篠田さんはOBとして事業報告のために参加します。そんな彼のプレゼンを心待ちにしていたのが、そのときの現役受講生だった中沢恵美子さんでした。東京で15年間の飲食店マネジメント経験をもつ中沢さんですが、東京での記憶の多くは「経営者から責められる店長」としての自分であり、戻りたかった故郷高知での、本当の自分を活かせる、そして身の丈に合った飲食業経営像を模索していたところだったのでした。こうして中沢さんは、その日、篠田さんに挨拶に行き、自分の連絡先を告げます。

## 特集 01



一方、歴史ある商店街という濃厚な地域コミュニティの一角でゲストハウスを営むようになった篠田さんは、地域とのより強いつながりのあり方を模索していました。宿泊客の多くは県外者なので、ゲストハウスにバーを併設して近隣の人たちとの関わりづくりに努めましたが、自分一人で行うことは限られていることを実感。そして中沢さんに、「とまり木の1Fでカフェをやってもらえませんか」とアタックするに至ります。中沢さんが篠田さんにメニューの候補としての手料理とスイーツを披露すると、篠田さんがもう絶賛！そこからはトントン拍子で2019年2月、ゲストハウスインカフェ「カネナカ」がオープンしました。

パフェがSNS上で有名になって県外からのカフェ客も集客できるようになり、とまり木もカネナカも売上新記録を更新した今年の3月、そんな彼らをコロナが襲います。宿泊業であるゲストハウスは大打撃を受けますが、とまり木は中期経営計画を1年前倒して達成していて、待望の二号館であるShu（個室型ホステル）のオープンも果たしていました。最近では、篠田さんの起業家精神が行政や近隣社会からも高く評価されて、企業支援関連のお仕事の依頼も増えているようです。

また、カネナカも近隣のお客さんをしっかりとつかんでおり、テイクアウトメニューが売上を支えていました。取材に尋ねた7月上旬はまだ、お客さんの戻りも本調子には遠い状況でしたが、篠田さんと中沢さんのことは、彼らの話を聞いていて、そう大きな心配はないように思えました。

とまり木とカネナカは二人三脚ではあるものの、それぞれが独立した事業者であることがとても重要のようです。土佐経営塾の仲間たちがこの二人を結びつけたキューピットであり、経営塾は少なからず二人の考え方や会話の共通基盤にもなっていることが、とまり木とカネナカを訪ねてよく分かり、逆に勉強にもなりました。

(文：竹内伸一)



ゲストハウス「とまり木」  
〒780-0821 高知県高知市桜井町1丁目2-20  
TEL:080-2979-4212  
HP <https://tomarigi-hostel.com>  
Instagram @tomarigi.kochi

cafe カネナカ  
〒780-0821 高知県高知市桜井町1丁目2-20  
とまり木ホステル1階  
TEL:090-9458-2517  
HP [https://www.instagram.com/cafe\\_kanenaka/](https://www.instagram.com/cafe_kanenaka/)  
Instagram @cafe\_kanenaka

## 特集 02

## デザインで生きる。

9期生(2018年修了)

2.0design  
デザイナー

溝渕 恵里



生まれ故郷の香美市で“2.0 design”を主催する溝渕恵里さんは、土佐市の地域おこし協力隊に参画していた2018年秋に、土佐経営塾の第9期生として小規模事業経営のあり方を学びました。関西の美大と広告制作会社で高知を8年離れていた溝渕さんでしたが、高知に戻る動機の一部には、少女時代を過ごしたときに感じていた故郷の窮屈感を、今度は自らがこの地でデザイン事務所を自立運営することで克服したいという、少しでもナイーブな想いもあったようです。いい話ですね。

土佐経営塾からはこれまでに何人かのデザイナーが巣立ちましたが、その人たちは異口同音に「高知ではデザイン料をチャージしにくく値切られてしまう」と嘆いていました。そんな中で「溝渕さんはどうなっていくのだろう」というのは、講師の関心事のひとつでした。溝渕さんにこの話題をストレートにぶつけてみたところ、「決して弱気な値付けはしていない」と即答がありました。彼女のデザインコンセプトは「女性らしさ」「かわいらしさ」「親しみやすさ」であり、それをデザインとして突き詰め、それがうまくフィットする商材や宣材にはきちんと価値提供できている。だから、「ビビることもしばしばだけれど」と前置きをしつつも、「胸を張って価格提示している」とのことでした。同じことをしてもうまくいく人とそうでない人がいます。その違いを考えないといけませんね。



現在のクライアントには、協力隊つながり、土佐市つながり、経営塾つながりの人たちが少なくなく、溝渕さんの丁寧な仕事とデザインセンスのよさに評判が評判を呼んで、彼女はキャパシティいっぱい仕事を抱えているようです。現在はビジネスパートナーも得て、大きな仕事を請け負ったときには分業や協業もしてどうにかこなしている彼女ですが、受注する仕事量の調整が効きにくく、アシスタントを雇用するにもなかなか勇気がある個人事業者の苦しさの真ただ中にもいるとのこと。でも、経営塾を修了してまだ1年半の溝渕さんには、それがとても「健全な苦しみ」のようにも思えました。

そんな溝渕さんを支えているのは、やはり土佐経営塾の同期生なんだと。仕事上の関わりはもちろん、ときには個人的な相談に乗ってもらったりと、経営塾の絆の恩恵にも浴していることが分かり、彼女のがんばりはもちろんのこと、彼女を取り巻く温かい環境があることがとても嬉しくなりました。溝渕さんへの心配は、若さゆえのがんばりすぎです。くれぐれもご自愛ください。



(文：竹内伸一)

2.0design  
Mail mizobuchi.e@gmail.com  
Instagram @2.0design\_kochi , @chuu\_kochi

## TOPICS

## ■ 高知県 理事・産学官民連携センター長 澤田博睦

土佐経営塾通信創刊おめでとうございます。コロナ禍の影響で、人と人のつながりの大切さが再認識される中、この通信は、竹内・田村両先生や同じ言語で語り合える仲間とのつながりを紡ぐ大きな役割を果たすものと期待しています。

10年前、板原土佐市長のご英断で商工会等の跡継ぎの方々の悩みに応えて始まった土佐経営塾。後援する県として授業を拝見した時、これこそ経営者が直面する悩みに正面から立ち向かう術を学ぶ講座だと直感しました。ちょうど産業振興計画がスタートして1年。地域産業の人材育成が重要課題となっていました。

2年後、土佐まるごとビジネスアカデミー（土佐MBA）の構築時に事業を引き継ぎ、全県的な取り組みの中核に位置づけました。今ではトータル10期、約200名の修了生の皆さんが県内各地で活躍されています。

今年は土佐MBAも多くがオンライン講座となり、新常态の中で、人と人がつながれる講座をいかに構築するか、試行錯誤が続いています。デジタルの時代だからこそ、土佐経営塾のさらなる進化を願っています。



## ■ 高知県産学官民連携センター 人材育成支援担当 山本唯

今年度の土佐経営塾を担当します山本です。経営塾の皆さまとご一緒できること、大変嬉しく思っています。

1年間どうぞよろしくお願い致します！



## ■ 令和2年度「土佐経営塾」受講生募集のお知らせ

土佐経営塾の受講生を絶賛大募集中です！  
詳細はHPをご覧ください！



## Another Story

～土佐経営塾を支えた人～

土佐経営塾8～9期の県庁担当者を務めさせていただきました合田です。

さて、私の近況といたしましては2017年より3年間在籍しておりました高知県産学官民連携センターを離れ、本年4月より高知工科大学に勤務しております。

土佐経営塾を通して、両先生と修了生の皆様の様々なドラマにご一緒できたこと、今も鮮明に記憶に残っております。

コロナ禍の影響はまだまだ続きますが、土佐経営塾の繋がりの力で乗り越えていきましょう！



経営塾8～9期担当

合田 健太郎

現在：高知県公立大学法人

高知工科大学

学務部 就職支援課

## 教えて！

## 竹内先生の「この本 読んでみたら？」

『人生に必要な教養は中学校教科書ですべて身につく』

池上彰・佐藤優 著 中央公論新社（2020）

この本のタイトルを見て、「まあ、そういうことなんだろうな」と思った人は少なくないでしょう。中身は中学校の教科書なので、大人である私たちには、やはり基本的な事柄でしかないですし、聞いたこともない知識に触れられるわけでもありません。その代わりに、「基本」というものは、これほどまでにストレッチ可能なものなのかということが、深く味わえる本になっています。著者の二人が実にストレッチ上手で、本当に感動します。もし、経営塾修了生有志で、この本の小学校教科書版を書き下ろして出版するチャンスがあったとしたら、私たちだったら小学生程度の知識をどこまでストレッチしてみせることができるでしょうか。私はいま結構本気で言っています、そんな仕事もいずれ皆さんとしてみたいと、本当にそう思っています。

## 土佐経営塾通信の創刊によせて

土佐経営塾通信の創刊おめでとうございます。

2009年に土佐市・本山町で20名を集めて始まった土佐経営塾。初めて手にしたケーススタディの資料とシラバスの重みが、昨日のここのように思い出されます。仕事後におにぎりを食べながら走って会場に向かったこと、家事を終えてから夜中までレポート作成にいそしんだ日々、仲間と一緒に修了証書を手にした喜びの日、それらが全て自分の人生の大きな糧になったと実感しています。



さて、この10年間で当講座は大きな発展を遂げ、約200名の修了生が巣立ちました。同塾では、修了後も同期生で自主勉強会を開き、毎年、修了生全員を対象にケーススタディでの講義を持つなどして学びの場を持っています。時には地域の課題に対して首長や自治体の幹部と、経営的視点から意見の交換会を行うなど社会的な活動も行ってきました。しかし、修了生の数が増えるにつれ、横のつながりが途絶えがちになってきたことも事実です。

そこで土佐経営塾の更なる発展と、修了後の学びと情報の共有を支援する体制づくりを目指して、県や講師陣・修了生のご賛同とご支援を得て、2019年に同窓会組織が出来上がりました。この組織ができたことで、卒業生同士のつながりを保てるだけでなく、情報の共有・学びの機会が、修了後も継続して持てることになります。そしてこの『土佐経営塾通信』が、その大きな役割を担ってくれることは間違いありません。この会がいずれは高知県の素晴らしい財産になるよう、皆様方にもご協力いただけると幸いです。

さて、残念ながら2020年は新型コロナによる生活様式の制限の中で、例年のように塾生と講師陣が同じ会場でも学ぶという形式は持てなくなるかもしれません。しかし、思い起こすと開講当初は土佐市・本山町の両自治体の会場と竹内先生の研究室を結ぶTV会議でほとんどの講義が行われていたのです。遠隔講座の実績のある土佐経営塾ですので、どのように状況が変化しても、遠く離れた塾生同士が画面を介して熱い議論を交わし、実りのある講義が進められるでしょう。今年も同窓会へ新しいメンバーが加わることを楽しみにしています。

竹内・田村両先生、ココプラのスタッフの皆様の多大なる労力で、『土佐経営通信』が創刊されたことに謝意を表します。

2020年7月31日

土佐経営塾同窓会 会長  
第1期生 大奈路はるみ

## 編集後記

土佐経営塾通信の創刊号をお届けしました。お読みいただきありがとうございます。

この土佐経営塾通信の創刊に至ったのは、竹内先生やココプラの川島妙さん・山本唯さんと、「11年目を迎えた土佐経営塾の社会的な存在価値を更に高めていくにはどうすればいいのか？」という大きな問いについてのざっくばらんな議論が発端です。その問いに対して私たちが出した一つの答えが、この「土佐経営塾通信」の創刊です。

この土佐経営塾通信には、“修了生・講師・運営者・受講希望者を結ぶメディアとしての機能を果たす”という期待を込めています。修了生のご活躍ぶりを講師の視点で伝える特集記事、同窓会の活動報告、ココプラからのお知らせ、過去にこの土佐経営塾を支えていただいた方々の近況報告など、土佐経営塾に関わる皆さんの情報をお届けすることで、読み手の皆さんが元気と刺激を受け取っていただけると幸いです。（取材・寄稿にご協力いただきました皆さま、ありがとうございます。）

今回、土佐経営塾通信のフォーマットデザインは、「特集02」の2.0design 溝渕恵里さんをお願いしました。その秀逸なデザインワークに、発行者の編集力が追いついておりませんがご海容ください。“修了生・講師・運営者が共に創るメディア”としての今後の成長に、引き続きご協力いただきますと幸いです。

（文：田村樹志雄）